

クラス紹介

医学部生のスタート

2年 外山 重斗
桐生幸之助
川崎 寧々

ずっと長い間、待ち望んでいた新潟大学医学部医学科の学生としての生活がスタートしてから、気付けば1年経っていました。この1年間は大きな変化があり、それらに順応していく中でとても成長できたと思います。

私たちは令和5年度春に入学し、教養科目に合格進級した新潟大学医学部医学科2年生です。私たちの学年を一言で表すと、「全国最多の医学部定員で入学した最大規模の学年」です。令和5年度春の入学者の定員は140人でした。140人という人数は全国最多の医学部の定員です。卒業後に新潟県内の指定された医療機関での勤務が義務付けられる「地域枠」の定員が前年度から7人増員されて40人となって、「一般推薦」の20人と「一般受験」の80人で合わせて140人になりました。人数が多いことで、さまざまな交友関係が生まれ、和気藹々とした雰囲気があります。この一年でできた交友関係を大切に、また新たな人との出会いを期待しながら、医学部生としての6年間の生活を共に切磋琢磨して過ごしていきたいです。

私たちが入学した、5年度の春からは新型コロナウイルス感染症が、それまでの「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類等」に変更されました。この変更によって多くのことが変わりました。ZOOMやオンデマンドなどの非対面だった授業がそれぞれの教室で受けることのできる対面の授業に変化したり、部活などの大会や新歓などもコロナ前よりも盛んになりました。前年度に比べ、より友人や先輩方と関わる機会が増えたことで、学生生活も有意義なものになっています。

2年生は6年間の中でも最も大変だとも聞きます。1年生で学んだことを忘れることなく、2年生になる覚悟と準備をしていきたいです。

未来の医療を担う、新潟大学医学科3年生クラス

3年幹事 田中 佑弥
平井 脩翔
阿部はる菜

新潟大学医学科2年生クラスは、医学への情熱と知識を深め、患者さんの健康を支えるプロフェッショナルを目指す学生たちで構成されています。クラスのメンバーは皆多様性に富み、さまざまなバックグラウンドを持つ学生が一堂に会しています。

クラスの中には、生化学、生理学などの基礎系科目を学び始め、解剖実習も行ったことで、医療に携わるものとしての心構えを改めて持つ学生が多くいます。臨床の場においても重要となる医学の基本をしっかりと理解し、実践で活かすことを目指しています。社会的な問題に敏感で、医療のアクセスや公衆衛生に関心を寄せ、医療の未来をより公平かつ効果的に構築しようと考えている学生も見られます。

私たちのクラスは協力とチームワークを大切にし、病院や医療施設での実習やプロジェクトにおいて、連携して効果的なケアを提供するためのスキルを磨いています。患者さんのために最善のケアを提供するために、知識とコミュニケーションの能力を高めていくことに取り組んでいます。

また、健康と医療に関する啓発活動にも熱心に取り組んでおり、地域社会に貢献することを大切にしています。健康教育プログラムや健康スクリーニングキャンペーンなど、地域の健康向上に向けたプロジェクトに参加し、医学の知識を広める努力を惜しまない一面もあります。

新潟大学医学科3年生クラスは、医療のプロフェッショナルとしての素養を身につけ、社会に貢献する使命感を持っています。私たちは知識、スキル、情熱を結集し、未来の医療を築くために努力し続けています。

コロナ禍が明けた大学生活

4年 増田 美果
住安 蒼
岡田 隼汰

新潟大学医学部医学科に入学してから早くも3年間が経ちました。最初の2年間はコロナウイルスの感染拡大により、ところどころ思うような大学生活が送れない現状がありました。しかし、3年目となる昨年度からは対面授業がほとんどとなり、教室内では学生同士の交流が盛んになり、東医体などの公式戦の再開によりどの部活動にも活気が溢れ、学生生活の節々にコロナ禍以前の大学生活が戻ってきたことを実感できました。

3年生の授業は、前期課程は2年生までの様に座学での授業ではあるものの、学習内容がより複雑で実践的なものとなり、初めは苦戦する生徒が多く見られました。しかし、対面授業で仲を深めた学生同士で協力し、計画的に学習を進めることで、学年の大半が前期試験を通過することができました。

後期課程からはいよいよ基礎配属がスタートし、学年全体の授業ではなく各々が希望した研究室に学びに行く実習形式の授業が始まりました。各々が自分の研究に熱心に向き合っているため、大学内で偶然出会った学生同士が、互いの研究内容について楽しく話し合う姿が印象的でした。

いよいよ今年度には、医学部生活において最初の大きな関門であるCBT試験が控えています。しかし、今のこの学年の雰囲気ならば、大きな試験でさえも互いに協力して日々高めあい、乗り越えることができると確信しています。

楽しい楽しいOSCE、ドキドキワクワクCBT 4年生です泣

5年 学年幹事 丸井 りく
岩瀬なつみ
直井かすみ

4年生では、学生はさまざまな臨床実習や研究プロジェクトに参加することが一般的です。そのためには今まで学習した知識を確認し、臨床に出てStudent Doctorとして実習ができるかどうかを審査するCBTという試験や、実習に必要な技能が身についているかを確認するための試験であるOSCEに合格する必要があります。彼らは基本的な医学知識や臨床スキルをさらに深め、実際の医療現場での経験を積む機会を得ます。4年目の学生は、内科学、外科学、小児科学、婦人科学など、さまざまな専門分野での実習を経験し、実践的なトレーニングを受けます。

また、医学部のカリキュラムには病理学、薬理学、微生物学、公衆衛生学などの基礎科目も含まれており、4年目の学生は実習を通してこれらの科目においても学びを深めます。さらに、臨床実習を通じて、患者さんとのコミュニケーションスキルや医療チームでの協働能力を向上させます。

さらに、患者さんとの倫理的問題、上級医とのコミュニケーションなどについて学び、適切な臨床スキルを養います。患者さんとの信頼関係を築く能力が重視されます。

4年目の医学生は、臨床実践と専門的な知識の習得を通じて、将来の医療職としての自信を深める重要なステップを踏んでいます。

この段階では、将来の専門医や研究者としての方向性を模索し、自身の興味や能力に合った医療分野について深く学ぶことが期待されます。(GPT3.5より)

4年生では学年の雰囲気が一気にお受験モードとなります。

この1年を乗り切れば、晴れて白衣を着ることができます。
みんなー！がんばろー！おー！

合格するぞ、合格するぞ、合格するぞ、合格するぞお！
白衣着るぞ、白衣着るぞ、白衣着るぞ、白衣着るぞお！

集大成の1年

6年 板垣 結人
平石 啓人
福田 花

希望や不安、それらに促される緊張など様々な想いで満ちあふれた2019年の入学式から気付けば早5年が経ち、ついに最高学年である6年生となりました。非常に感慨深い気持ちになります。

この数年の時世を振り返るとしたら、コロナウイルスの世界的流行は外せないトピックだと思います。私たちの学年はコロナ禍への突入とそこからの回復、その全容のほとんどを医学生という立場で経験してきた世代となります。「復興」という言葉が近いでしょうか。東医体を始めとする部活動の行事や運動会など、再開のため奮闘して参りました。一度止まった時計の針を再び動かし始めることの重要さとその難しさ、そこから得た経験、抱いた感情が今後の私たちの糧となり支えてくれることを信じています。

下級生に向けて最高学年という立場から伝えたいことは、6年間の大学生活をどうか悔いのないものにして欲しいということです。医師に求められる資質が多様化している現在、「豊富な医学の知識」と同じくらい「人間としての器量」が重要視されると考えます。勉強や部活に誠心誠意取り組み、大学生活のかけがえのない友人、部活の先輩や後輩と多くの思い出を作っていくことがより高い人間力を形作る一助となるでしょう。同じ学生の方際で何を上から、と怒られてしまいそうですが最後のクラス紹介文ということで何卒ご容赦ください。

一見長い文章も読んでしまえばあっという間だったでしょう？大学生活も同じです。うかうかしていると月日は一瞬で流れていきます。自分自身や周りの人、環境と真摯に向き合い、毎分毎秒命を燃やしていきましょう。

6年生一同、有終の美を飾ることができるよう、最後の1年間気を引き締めて精進して参ります。